

みんなの幸せと個人の幸せについて

創政クラブ

片野 晶子



問 価値観の多様化が進む一方で、行き過ぎた個人主義により地域の繋がりの希薄化や孤立が浮き彫りになってきていると感じる。全ての命を尊重し、互いに生かされているという日本固有の感性を見つめ直すことが社会の幸福につながると考えるが市の見解は。

答 個人の幸せを追究していただく事は重要であり、施策としてその後押しをしていく。加えて、人と人とのつながりを大切にし、個人の幸せを地域や周りの人が思いやり、支え合うことのできる寛容な地域社会をつくるのが、市民全体の幸せにつながると考える。



「高山市学校運営協議会制度（コムスク）」の立て直し

創政クラブ

倉田 博之



問 令和2年度に「学校と地域が一体となった社会総がかりの子育て」の高い志で導入されたコムスクは、初動でコロナ蔓延に飲み込まれ、目的・意義・意識の全体共有が機能停止した。現況に原点は反映されているか。

答 学校単位では意識共有や熟議はあるが、最も大切な地域の巻き込みはできていない。形だけでは意味がなく、学校が起点となり強い思いを持ってリードすべきだ。

問 「働き方改革」からか学校と地域の接点が簡素化・形式化され、学校が地域に対しよそよそしくなった。まずは教育行政と学校現場が原点回帰し、認識を新たにしなければならないのでは。

答 学校の意識改革とともに、地域に距離を置かず積極的に働きかけ「子どもと学校を核とした地域づくり」を進めていく。



中東情勢がもたらす物価・資材高騰等の対策について

日本共産党高山市議団

坂下 美千代



問 中東情勢の緊迫化に伴う物価・資材高騰は、医療（医療用グローブ240%値上がり等）、農業（出荷用フィルム等の入荷見通し難等）、建設業（内装材不足等）の現場に深刻な影響を与えている。市の現状把握と、利子補給の拡充や土木工事等の仕事づくりを含めた市独自の支援策に取り組めないか。

答 医療・農業資材（予約分）は現時点で大きな影響がないことを確認しており、今後も関係機関と情報共有を継続する。支援策については、国の約3.1兆円規模の補正予算による対応を注視しつつ、「高山市中小企業経営安定特別資金融資」や、「岐阜県経済変動対策資金」に追加された「中東情勢影響枠」の今後の利用状況を注視していく。公共事業は中東情勢に関わらず計画的に工事発注を行っている。

市道西岡本線と市道雁川原線との交差点の安全確保について

日本共産党高山市議団

上嶋 希代子



問 最近、歩行者が巻き込まれる大きな事故が発生した。優先道路の見分けがつきにくく、横断が難しいとの声があり、多くの市民から信号機の設置の要望がある。市の対応と今後の見通しは。

答 これまでも窓口の高山警察署に対して、信号機設置を要望してきたが、公安委員会も今回の事故を重く捉えていると伺っており、基準にとらわれず早期に設置されるよう強く要望を行っている。

